

1. まえがき

農林工学系年報第8号は、本学系教職員の平成8年度1年間における活動状況の足跡であり、学系教職員の自己評価と将来への発展のための参考になることを意図して編集されたものであります。その内容は本学系教職員の研究・教育・管理運営・学会活動・国際活動の詳細を把握できるよう編集されたものであります。とくに本号では昨年度退官された山口 彰先生より、特別寄稿をお寄せ頂いております。私たちを陰に陽にご指導下さいましたことに深く御礼申し上げます。

研究面では全分野にわたり研究活動が活発に展開されており、若手教官の学会賞の受賞が2件、中堅・若手教官を中心に科研費(国際学術研究)等も含め海外の研究者との研究交流や現地調査研究が活発に行われていることは評価に値します。

行革・財政改革と社会は大きな転換期にあります。教育も例外ではありません。こうした流れの中で、農学研究科の改変と合わせ本学系が中心となって要求中であった悲願の生物農林学系新棟が平成8年度に承認され、9年度中に完成の予定となったことは大きな喜びであります。学類の名称変更や農学研究科留学生の定員化、学園都市内研究機関の研究員を対象としたリフレッシュ教育課程の新設と定員化など現在進行中の農学研究科の再編整備に向けた改革への情熱が、学系棟の増設を可能にしたともいえましょう。本学系の教員もこれら改革の牽引役としてその一翼を担ってきております。

また本年度は科学技術基本法に基づく科学技術基本計画が閣議決定され、大学および研究機関の評価と整備充実などを含む研究開発推進に関する総合的かつ計画的施策が実施されようとしています。このように本学系を取り巻く内外の研究・教育環境は大きく変化しつつありますが、こうしたときにあたり、本年報を学内外の人々にご一読願ひ、農林工学系教職員の活動状況を正しく評価いただくとともに、忌憚のないご意見を頂き、将来への発展の糧としたいと願っております。

おわりに本年報の編集委員のご尽力と学系教職員のご協力に対し、心より感謝申し上げます。

平成9年12月

農林工学系長 天田 高白